志村 恵「本の中のふたごたち」⑩

動物が主人公のふたご・三つ子もの

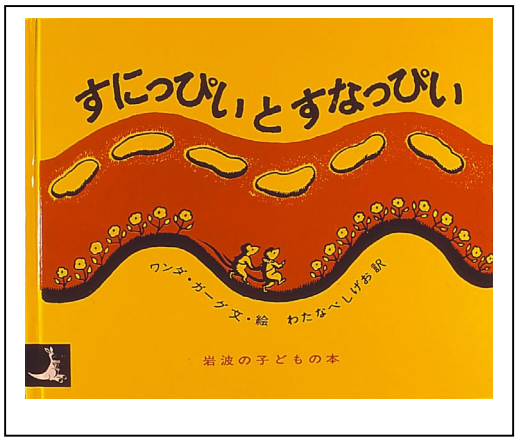
前回紹介した「探偵もの」と並んで、多胎児が登場する本の中で重要な要素をなしているのが、「動物もの」です。リストをさっと一眺めしただけでも、有名な作品が目白押しです。以前「ふたごだった！」と大喜びして報告した『ぐりとぐら』シリーズはもちろん、同じく既に紹介した『ティモシーとサラ』シリーズや『北極のムーシカミーシカ』、『ながいながいペンギンの話』、『三つ子のこぶた』あるいは『三つ子のグッチ　チッス　パッス』と枚挙にいとまがありません。子ども向けの絵本だったり、易しい読み物だったりするので、動物が主人公になるのは当然といえば当然かも知れません。ここでは、なぜ子どもものには動物が出てくるのか、動物が主人公なら、なぜその作品はかわいくなるのか、という野暮な問いはしないことにしましょう。でも、絵本や子ども向けの「ふたごもの」にはどうも必要以上に「動物もの」の割合が多い気がしませんか？

ところで、「動物もの」をじっと見ていてあることに気がつきました。それは、登場する動物が限られているということです。たとえばネズミは、多産のシンボル的存在なので、自然と多く登場しますが（ぐりとぐら、ティモシーとサラ、スニッピイとスナッピイなど）、トラだのヘビだのウシだのは見たことがありません。こう話したとき、妻に鋭く、ネズミは超多産なのだからなぜスーパーツインでなくて、ふたごが多いのかそっちの方がよっぽど疑問だと突っ込まれてしまいました。確かに、僕も三つ子、四つ子、五つ子のネズミにはまだ出会ってはいません。実際のネズミは一度にたくさん生まれるのにも拘わらずです。（ウサギはあります）。

さて、登場する動物の種類ですが、人気があるのは、ネズミの他にはやはりイヌ、ペンギン、ラッコ、シロクマなどかわいい動物たちです（実際の動物の写真を使って構成する「実写もの」では、コアラ、パンダ、ゾウなど）。しかし、不思議なことにネコは主人公になりにくいようです。少なくとも、僕の知っている範囲でネコが出てくるのは、『ふたごの仔猫のドッチとコッチ』などの「実写もの」と端役で出てくるあと一件だけです。つまり、創作的な作品の主人公でネコのふたごは見あたらないのです。一体全体なぜなのか？たとえば干支の 12 支にもネコはありません。でも、これとそれとは別のようです。ネコは自分勝手な気ままな動物だからでしょうか？それではネコに気の毒です。ネコ派の方々には残念でしょうが、「ふたごもの」では圧倒的にイヌが有利のようです。

また、鳥類の種類も少ないです。ペンギンも鳥類ですが、ペンギン以外には白鳥があるくらいです。ニワトリは、少し物語の主人公にはなりにくい気がします。ですからニワトリの話は見たことがありません。そして突然ですが、生物に強い人に教えていただきたいことがあります。それは、鳥類に一卵性のふたごはあり得るのかということです。卵で生まれるのですから、普通鳥類やハ虫類、魚類は多卵性多胎児ということになると思います（すごいケースは、何万、何億）。では、一卵性の双生児はあるのでしょうか？実は小学校４年生の時に、僕はふたごの相棒と同じクラスでした。ある時、給食でゆで卵が出たのですが、僕の卵はふたご（黄身が二つ入っていた）でした。クラス中が大笑いです。するとクラスの次の関心はどうしてももう一人の方に向かいます。そして、衆目の中で弟が卵を剥くと、何と彼の卵もふたごだったのです。「えーっ」という声が聞こえてきそうですが、これは作ったのではなく、本当の話です。何という偶然！その時以来、この疑問が僕の頭の中にあります。有精卵の場合、一卵性の、つまり一つの卵から二匹以上のたとえばペンギンがクチバシで、つんつんつついて誕生することはあり得るのでしょうか？

最後にこれも不思議なのですが、三つ子ものではブタが大変健闘しています。僕が知っている限りでは、「動物三つ子もの」の過半数をブタが征しています。ブタも多産のシンボルだからでしょう。そして、なんとなく群れているブタが丸く、ブウブウとかわいい印象があるのです。それぞれのくるっとした尻尾に色違いのリボンを付けたりして。



カーグ：『すにっぴいとすなっぴい』書影　　いぬいとみこ：『北極のムースカミーシカ』書影

ワンダー・カーグ：『すにっぴいとすなっぴい』（ネズミ）、岩波書店。
アン・グットマン：『ペネロメとおむつのふたごちゃん』（コアラ）岩崎書店。
『ペネロメとふたご』岩崎書店
東君平：『みつごのグッス　チッス　パッス』（イヌ）、大日本図書。
いぬいとみこ：『北極のムースカミーシカ』（シロクマ）、理論社他。
『白鳥のふたごものがたり』（白鳥）、理論社。
『ながいながいペンギンの話』（ペンギン）、岩波少年文庫他。
『ぼくらはカンガルー』（カンガルー）、理論社。
理論社から合本有り。
おかのかおるこ：『ふたごのラッコ』（ラッコ）、ポプラ社。
川崎洋：『ふたごぞう　ニニとトト』（ゾウ）、婦人の友社。
神沢利子：『ぽとんぽとんはなんのおと』（クマ）、福音館書店。
中川季枝子：『ぐりとぐら』シリーズ（ノネズミ）、福音館書店。
『三つ子のこぶた』（ブタ）、『おひさまはらっぱ』収録、福音館書店。
『三つ子のこぶた』（ブタ）、のら書店（別のお話）。
『わんわん村のおはなし』（イヌ）、福音館書店。
芭蕉みどり：『ティモシーとサラ』シリーズ（ノネズミ）、ポプラ社。
松岡享子：『おふろだいすき』（ペンギン）、福音館書店。
与田準一：『ちくたくてくはみつごのぶただ』（ブタ）、童心社他。

『ツインズ』35 号（ビネバル出版）から転載・修正